

教育目標

工学専門領域の枠を超えて、高度専門職業人として必要な広範な教育（教養教育やビジネス・経済関連教育を含む）、人間力の育成、および専門能力開発（Professional Development）を行うとともに、工学研究科における修学・研究に資する基礎科学・自然科学領域の教育を行う。また、必要に応じて、専攻に共通して関心の高い先端技術、複合領域、最新の研究開発状況などに関する教育を実践する。

科目群の主な学習・教育目標	博士前期（修士）課程	
	前学期	後学期
科学技術倫理科目 科学技術者が研究・開発・実践において重視すべき価値について説明でき、科学技術に関連する倫理問題について具体的な例をあげながら、解説できる。	プロフェッショナルとしての倫理と行動設計 A ①	
	プロフェッショナルとしての倫理と行動設計 B ①	
ビジネス系科目 金利などにかかわる理論、金融政策、資金調達と運用の理論など、エンジニアとして必要な金融知識を持ち、説明できる。また、企業の価値生産活動の過程において、原価を認識・測定・記録・報告できるとともに、対処方法について検討できる。技術者の素養として、国際的な視野に立ち企業およびビジネス活動を理解することができる。	エンジニアのための簿記実践特論 ②	エンジニアのための簿記実践特論 ②
		イノベーション特論 I ①
		ビジネス戦略特論 I ①
		ビジネス戦略特論 II ①
		基礎解析学特論 A ①
		基礎解析学特論 B ①
		先端技術と科学 A ①
		先端技術と科学 B ①
		日本語テクニカルコミュニケーション ②
		イングリッシュテクニカルコミュニケーション I ①
一般科目 科学技術に関する諸問題を数学的な手法を用いて解析し理解できる。また、確率統計的な概念を身につけ実際の問題に適用できる。さらに、日本語または英語で論理的かつ正式な書式に則った文章で研究の成果を表現できる。	工学のための確率・統計 I ①	基礎解析学特論 A ①
	工学のための確率・統計 II ①	基礎解析学特論 B ①
	日本語テクニカルコミュニケーション ②	先端技術と科学 A ①
	イングリッシュテクニカルコミュニケーション I ①	先端技術と科学 B ①
	イングリッシュテクニカルコミュニケーション II ①	日本語テクニカルコミュニケーション ②
	専攻共通特別講義 I ①	イングリッシュテクニカルコミュニケーション I ①
		イングリッシュテクニカルコミュニケーション II ①
		国際標準化概論 I ①
	国際標準化概論 II ①	

○付数字は単位数を表す

高信頼ものづくり専攻 博士前期課程（1年制コース）は除く。